

県産材をもっと使おう!

～福井の木を使って森林と暮らしを守ろう～



戦後の復興や経済成長を背景に、木材の需要が急騰し、これに応えるために、全国ではスギなどの造林が盛んに行われました。



現在、この造林地は、林業生産活動の停滞などの理由から、手入れされない荒れた森林が増えています。



「ふくい山の木」をどんどん使うことで、森林と私たちの暮らしが安全で豊かになります。

福井県総合グリーンセンター

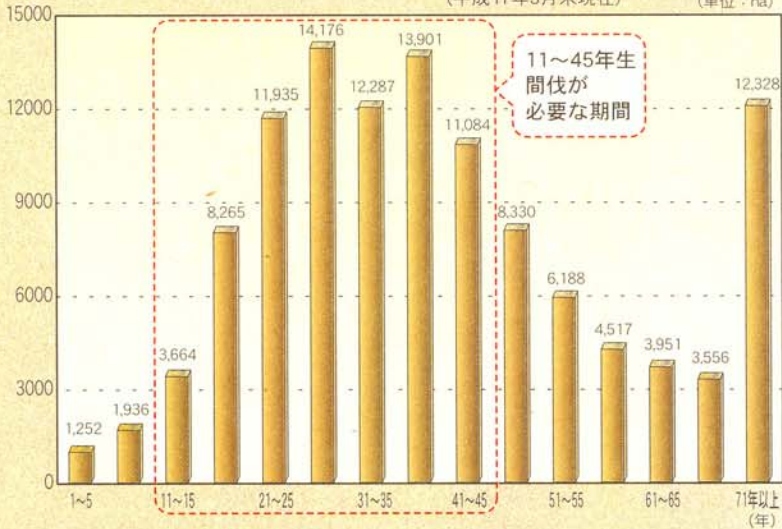


健康長寿な福井です
福井県

福井県における人工林の齢級別面積

(平成17年3月末現在)

(単位: ha)



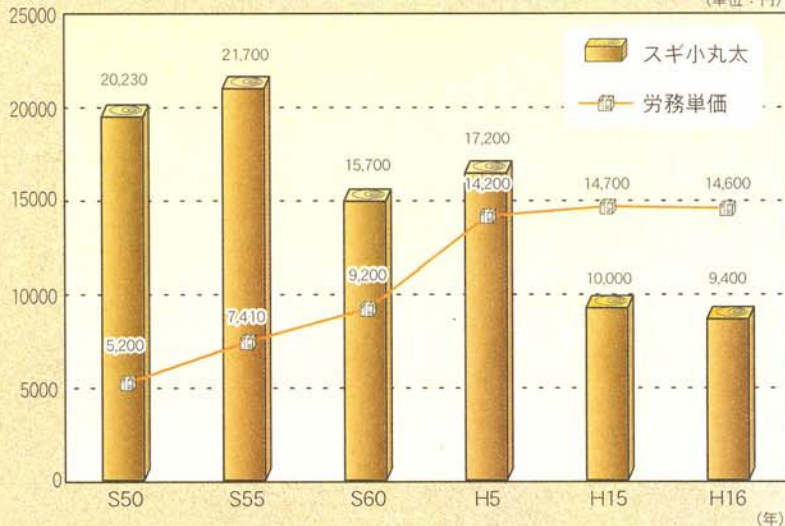
森づくり課業務資料

福井県の人工林面積は11万7千haであり、このうち間伐が必要な樹齢11~45年生の面積は7万7千haで全体の約66%を占めています。

間伐材は「弱い」、「不良品」というイメージがありますが、強度的にも問題が無く、土木資材や建築資材などで有効に活用されています。

福井県における木材価格・労務単価の推移

(単位: 円)

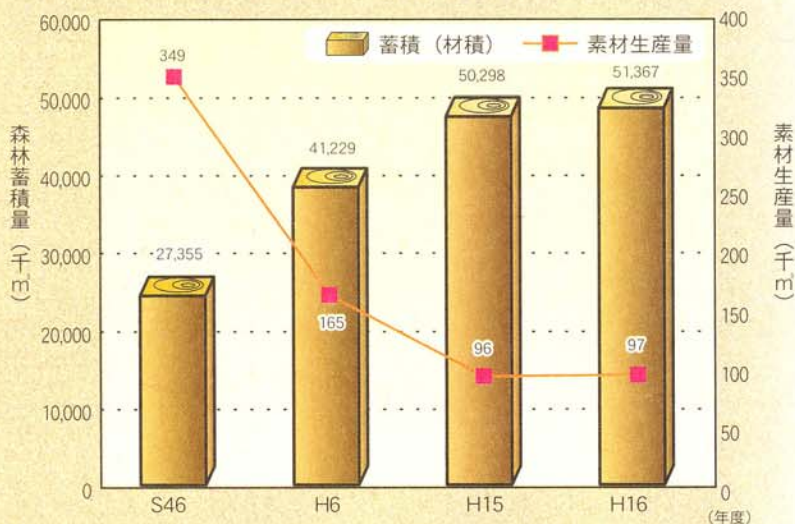


県産材活用課業務資料

福井県における木材価格は下落を続けている一方、労務単価については徐々に上昇し、近年は横ばい傾向にあります。

全国的にも木材価格が低下しているものの、世界の丸太価格の相場は1m³当たり100\$であり、ようやく国際水準と同程度の価格となったともいえます。

福井県の森林蓄積と素材生産量

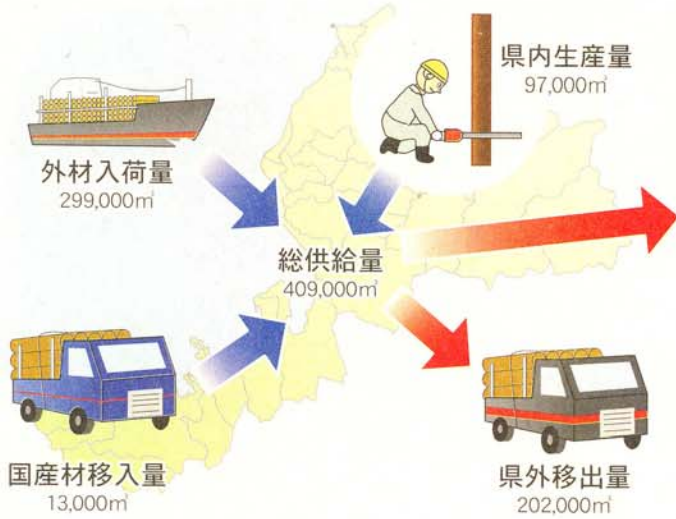


県産材活用課業務資料

福井県の面積の75%を占める森林は、植えて育てる時期からようやく伐って使えるまでに成長してきました。

しかし、福井県の木々の材積が年間約100万m³も成長しているにもかかわらず、わずか9万7千m³ (約10%) しか使われていない状況です。

福井県の木材受給状況 (H16)



県内での供給



県内製材用
177,000m³



県内木材チップ用
30,000m³

充実しつつある森林資源を有効に活用するためには、外材・県外産材を「ふくい」でとれた木に替えていくことが大切です。

このことが私たちの暮らしを豊かにしてくれます。

県産材活用課業務資料

(単位：戸) 福井県における新設住宅着工戸数の推移



木造率



県内の木造住宅に使用されている木材のうち

約7割が外材・県外産材を使用

もり 森林のはたらき

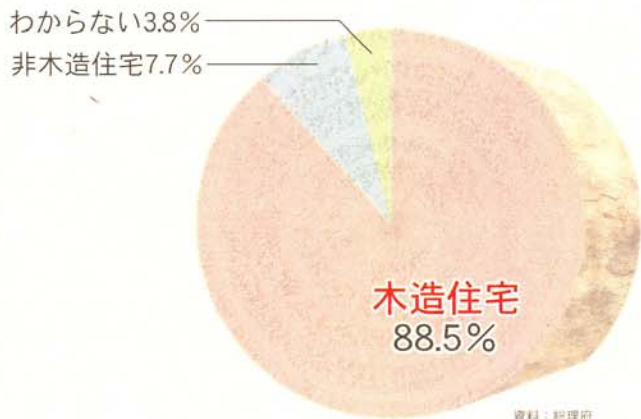


「ふくいの山の木」を利用することによって、下刈りや枝打ち、間伐などの森林の整備が進むことにつながります。

また、きちんと管理された森林は、山崩れや土砂の流出を防ぐ機能が高まり、県土の保全にもつながります。

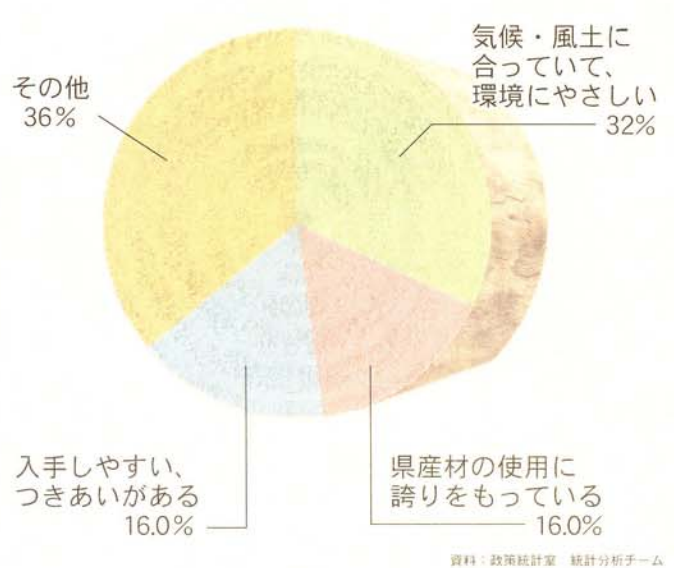
県産材を使うことが大切です。

■木造住宅のニーズ

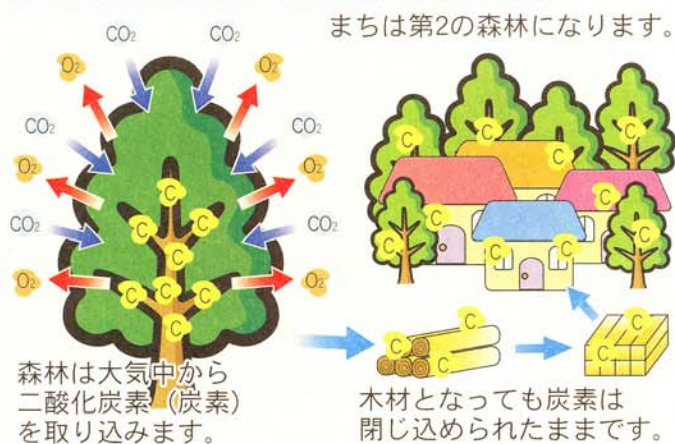


平成11年に国が行った世論調査によると、家を作るなら木造住宅を選びたいという方が9割にも達し、木造住宅が求められています。

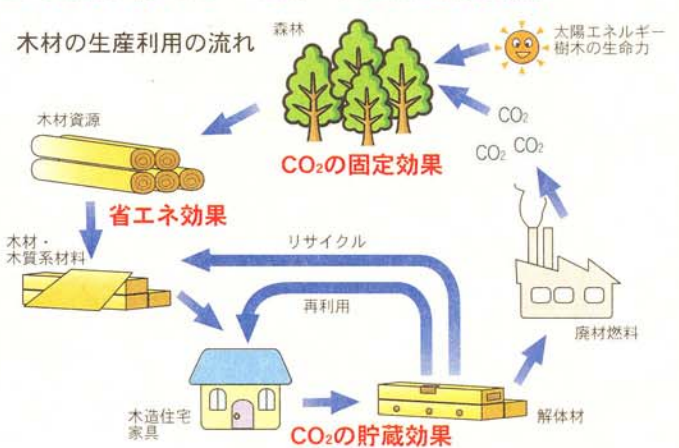
■大工・工務店が県産材を使っている理由



■地球温暖化防止に貢献する木材利用



■木材は育てることができる生物資源



■地域材を使うことによって二酸化炭素の排出量が抑制されます

材種別の輸送過程における二酸化炭素排出量



県外から運賃をかけて木材を運んでくることは、不要な二酸化炭素の排出を促進することにつながり、環境に余計な負荷をかけることとなります。地元の木を地元で使うことは、環境にやさしい行動です。

仮に、北米材の輸入 (17,984m³) を地域材に変えると二酸化炭素の排出量を**2,464t減らす**こととなります。

県産材の利用に関するお問い合わせは、
福井県総合グリーンセンター 緑化・技術指導課 技術指導グループまで
 TEL (0776) 67-0002